

【新刊書籍のご案内】 『父たちの大東亜戦争』

戦地シンガポール・スマトラの意外な日々

一重砲兵として出征した 筆者の実父（康宏）たちの、6年に及ぶ貴重な記録！

堤康宏（つつみ・やすひろ）の参戦歴 昭和 16（1941）年 8 月、徴兵検査（満 20 歳）第二乙種合格。17 年 7 月、一等兵として陥落後のシンガポールへ。18 年 8 月、スマトラ島に移動。以来、終戦までの 2 年間に熱帯雨林の中で過ごす。終戦から 21 年 4 月までの 8 カ月間は、インドネシア独立運動の始まったスマトラ島に武装状態で駐留。武装解除後は、英領シンガポールで 1 年半、捕虜として抑留され、強制労働に従事。22（1947）年 10 月 7 日、シンガポールを出航。南方引き揚げ最終船（貨物船 7000 トン）にて、10 月 26 日に佐世保に上陸。10 月 30 日、佐世保より夜行列車に乗車、11 月 1 日、横浜の自宅に到着。

【本書章目次】

- 第一章 徴兵からシンガポール駐留まで／
- 第二章 観測兵としてのスマトラでの体験／
- 第三章 スマトラの生活と現地の人たちとの交流／
- 第四章 終戦とシンガポールでの抑留生活／
- 第五章 復員とその後の苦勞

四六判上製本（256 ページ）／定価（本体 1500 円）

私の亡き父親、堤康宏はこの著書を書くとき 89 才であった。

大正 10 年（1921 年）3 月 4 日、横浜生まれ）。インドネシア戦線の兵隊（陸軍重砲兵、観測手）として、20 代前半の 5 年半近くを南支の最前線にいた。父親の所属した部隊は、独立重砲兵第二大隊第二中隊（坂口隊）だった。略して「二中隊」。実に 2 年 8 カ月間、スマトラのジャングルの中で毒ヘビやトラやマラリア蚊といっしょに過ごした。満州やフィリピンやビルマやニューギニアや沖縄でなくて、本当にラッキーだった。しかし、戦後は、英領シンガポールで 1 年半にわたる強制労働が待っていた。父親、康宏が長く過ごしたスマトラ島では、激しい戦いはなかったけれど、それでも、死に直面したことは何度かあった。ジャングルでの生活や熱病を生き抜いたからこそ、今私がここにいる。

毎日のように電話をかけて、内容をチェックする日々でした。若き堤康宏と本当の友だちになれたような気がしています。それにしても、70 年近く前のことをよくぞ詳細に覚えていたものだと、息子ながらに感心する毎日でした。これまでにあまり類をみない内容を有するこの本が、戦争記録としても少しでも役立つことを祈って、2010 年 6 月 30 日（水）の出版をともに祝いたいと思います。2010 年 7 月吉日 堤 寛 Yutaka Tsutsumi e-mail: tsutsumi@fujita-hu.ac.jp 電話：0562-93-2439 私の父親、堤康宏は現在 89 才である（大正 10 年（1921 年）3 月 4 日、横浜生まれ）。インドネシア戦線の兵隊（陸軍重砲兵、観測

手)として、20代前半の5年半近くを南支の最前線にいた。父親の所属した部隊は、独立重砲兵第二大隊第二中隊(坂口隊)だった。略して「二中隊」。実に2年8カ月間、スマトラのジャングルの中で毒ヘビやトラやマラリア蚊といっしょに過ごした。満州やフィリピンやビルマやニューギニアや沖縄でなくて、本当にラッキーだった。しかし、戦後は、英領シンガポールで1年半にわたる強制労働が待っていた。父親、康宏が長く過ごしたスマトラ島では、激しい戦いはなかったけれど、それでも、死に直面したことは何度かあった。ジャングルでの生活や熱病を生き抜いたからこそ、今、私がここに生きている。父たちの大東亜戦争 一戦地シンガポール・スマトラの意外な日々 幻冬舎ルネッサンス TEL:03-5411-6710 注文書 貴店印 冊 FAX:03-5411-6667 定価 1575 円(本体 1500 円+税) 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0599-2 『父たちの大東亜戦争』 戦地シンガポール・スマトラの意外な日々 堤 寛 お客様欄(氏名・住所・連絡先) 【新刊書籍のご案内】 『父たちの大東亜戦争』 戦地シンガポール・スマトラの意外な日々 堤康宏(つつみ・やすひろ)の参戦歴 昭和16(1941)年8月、徴兵検査(満20歳)第二乙種合格。17年7月、一等兵として陥落後のシンガポールへ。18年8月、スマトラ島に移動。以来、終戦までの2年間を熱帯雨林の中で過ごす。終戦から21年4月までの8カ月間は、インドネシア独立運動の始まったスマトラ島に武装状態で駐留。武装解除後は、英領シンガポールで1年半、捕虜として抑留され、強制労働に従事。22(1947)年10月7日、シンガポールを 出航。南方引き揚げ最終船(貨物船7000トン)にて、10月26日に佐世保に上陸。10月30日、佐世保より夜行列車に乗車、11月1日、横浜の自宅に到着。 【本書章目次】 ●第一章 徴兵からシンガポール駐留まで／●第二章 観測兵としてのスマトラでの体験／●第三章 スマトラの生活と現地の人たちとの交流／●第四章 終戦とシンガポールでの抑留生活／●第五章 復員とその後の苦勞・今、日本の子ども、教師、学校があぶない 第二章 教育をとりまく現状に喝!・教育委員会の言いなり。チーママ校長でいいのか。管理職に喝!、ほか 第三章 田舎発の「教育力」が日本を変える・今、田舎発の教育力が旬、ほか 四六判上製本(256ページ)／定価(本体1500円+税) ISBN978-4-7790-0599-2 C0095 ¥1500E ■ 著者紹介 堤 寛(つつみ・ゆたか) ■ 1976年慶應義塾大学医学部卒、80年同大学院修了。2001年以来、藤田保健衛生大学医学部第一病理学教授。免疫染色を病理診断に導入したパイオニアである。患者さんに顔の見える病理医と、日本の常識・世界の非常識を見直す社会派病理医を目指し、01年に一般書『病理医があかすタチのいいがん悪いがん—最新診断・治療ガイド』(双葉社、自力復刻)と『病院でもらう病気で死ぬな—現役医師が問う、日本の病院の非常識度』(角川新書)を出版。『完全病理学総論』(医学教育出版)、『クイックマスター病理学』(医学芸術社)、『完全病理学各論』全12巻(学際企画: DVD版あり)、自信作の『感染症病理アトラス』(文光堂、web復刻)と“Pathology of Infectious Diseases”(英語版web)がある。一重砲兵として出征した